



ピノコパパのエッセ  
イ集から



続 昭和レトロな善通寺

pinokopapa

## 駅を降りると

---

JRの駅に降り立つと、駅構内に今はセブンイレブンが営業しています。これはごく最近からです。毎日そんな変化を見ていると、まるでそれが昔からそうだったような気になり、待ち時間、店に入って、昔からそうしていたように週刊誌を立ち読みし、時間が来るとなにも買わずに出て、電車に乗ります。以前は何があったのでしょうか。日頃はもう考えもしません。変われば変わったなりに、慣れてしまうのです。

町中は変わります。取り残されたものも変わって行きます。本郷通りは、かつて電車通りとも呼ばれていました。そこを電車が走っていた頃に建っていた建物に、今も誰かが住んで建っています。



電車など、善通寺を走っていたことを知っていて、かつ乗ったことのあるのは私達世代までだと思います。いまは広い道幅の普通の道路になってしまっています。電車の無くなったあと、バスが走りました。朝はバスが一杯でした。私も学校へ丸亀まで乗って通ったことがありました。友人は自転車で通っていましたが。そのバスも今でも朝

晩一、二本走っているはずですが、乗ったことはありません。写真の建物は二重屋根の槌壁作りの家です。このあたりでは農家に多い建て方です。それが昔からの表通りに建っていました。写真の右に少し写っているのは、労住協マンションで、善通寺に始めてエレベーターのついた建物です。これさえ古びて、夜明かりのつかない部屋ばかりです。

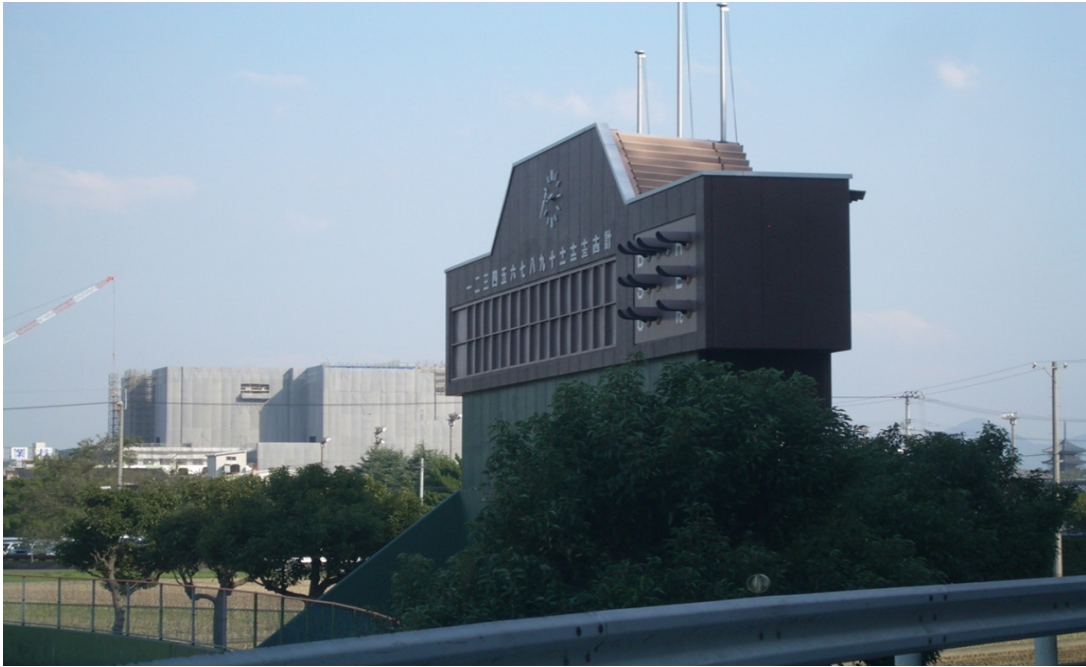
かつての本郷通りを歩きながら、ちょっと横を見ると川の走水路が確認できます。大きな分岐で、ここでも二方向に分かれています。写真の先でも分かれています。各方面に水が行くようになっています。走水路のコンクリートと水門は昔のままです。



川の横の漆喰塀は、兵隊ばあさんで有名だった料理旅館です。今は料亭だけになっています。町中のこんな走水路をたどってみてください。家並みの向うに、今は稲を刈り取られた田が広がっています。すぐそこです。

善通寺さんの裏のことです

朝比奈グラウンドのスコアボードが見えます。日ごろは使われていませんが、地元の中学生とか草野球の試合で賑わっていることもあり、そんなときは楽しくなります。



そして少しだけ目を横に振ると、甲山。まあるい鉢がね野様に見えるのでそんな名が付けられたのかと思っています。随分のどかな山の姿です。そうでした、この甲山にも遊歩道が出来ており、その道は登い初めこそ少し急ですが、あとは息も切れない緩やかさでした。しかし登る人もいないのか、頂上は背の高い草の生え放題、ベンチもありますが、草に埋もれています。地元のボランティアが整備してたこともあったようです。しかし木々が高く、景色も見渡せません。少々残念な思いをしたきおくがあります。



この山の麓、写真から言うところの山の景色の向うが甲山寺、八十八所の一つがあります。そして以前紹介した、たのかみさあ がいます。一木作りの仏様のいらっしゃるのもこの向うです。

本郷通りに戻ります

表通りの大川酒店、その隅を覗くと細い路地に片側は墨色の漆喰壁、もう片側は普通の白い漆喰壁が見えます。左の白い漆喰壁の向うには、小さな一戸建ての借家が三つ。玄関の、木の枠の引き戸に蔦が這いのぼっています。その前に立っていた家を取り壊された後の更地には、黄色いビニール紐が張られて畝が立てられ、何かが植えられています。花でも咲かそうとしているのでしょうか。表通りの一角ですが。



この路地を抜けると、少し斜め右にしたの写真の建物があります。



大きな洗い張りの店だったと思います。洗い張りと言っても、わからないかも知れません。着物を一旦ほどいて反物の状態にし、これの汚れを落として仕立て直しするのが洗い張りです。ここはもうこうなって長いですが、駅の近くに未だ小さくやっているところがあります。娘の宮参りの着物と、義母つまり私の妻の母の形見の着物を、そこで洗ってもらいました。宮参りの着物は、孫に着せ、肩身の着物は娘にもたせました。幸田文さんの時代みたいな話です。

古びただけにみえますが

二階の壁の真ん中の丸窓の結構、木の雨戸、そして手入れされた漆喰壁と間柱の慣れた風合い。下の玄関のアルミサッシは許しましょう。何より人が住んでいるのですから。だから車庫にシャッターがおりているのも、むしろ歓迎します。どうか住み続けてください。出窓もしゃれてて、いいじゃないですか。町屋原理主義じゃありませんから。



それにしても写真左の家はかわいそう。人が住まなくなって、まだ日は浅そうなんです。

下の写真は、あっ、いい物見つけた！と撮った写真です。路地裏の、直角に曲がった小道にあった用水桶で、こんなのが残ってたと、雨降り模様のなか、写真を撮りました。もうみなくなりました、こんなもの。木のふたの付いたコンクリートのゴミ箱、手押しポンプの井戸、そんなものが、昔は町中に普通にあったものでした。小石を敷き詰めた舗装がいいと思うのですが。どうでしょう。木の格子の玄関引戸。この家は道が狭くて、魚眼レンズじゃなくちゃ、二階まで撮れません。残念。



仲通の表にある大きな家です。残念ながら元は何をしていたお家か、知りません。二階のガラス戸がお洒落です。何かのおおだなだったかと思います。朝開店の時は、一枚一枚木戸を外したものと思われます。今は立て込められています。





随分傲慢な物言いをしました。ただ、こわしてしまえば、積み重ねた時が消えてなくなる、それが惜しい、その一点で思ったことを書いて見た、それだけとご理解ください。

お寺近くの建物です



上の写真の左側、二階のガラス戸の向うを見ると、欄干が・・・、見えませんか。写真が悪かったですね。本当はガラス戸向うに欄干と、回り廊下に障子戸があるのを撮りたかったのですが、写っていると思い込んで失敗しました。昔は大きな個人クリーニング店でした。しかし、その結構の立派さから、元遊郭だったのではと、他のサイトで紹介されていた建物です。立派過ぎたための誤解でした。しかし、今はもうなくなっておりますが、丸亀駅裏にこんな風な建物があり、ここは遊郭でした。善通寺でこの欄干、回り廊下、障子立て部屋の作りはここしか知りません。もっとあったのかと思います。

そしてその近くです。写真右の建物の、二階のガラス戸が素敵でしょ。一階のアルミサッシは興ざめですが。このあたりを私は幼年期、歩いておりました。むこうの洋館造りも素敵です。でも、この建物は表立っては紹介されません。どちらも日く付きですから。



この通りを歩いて町に出ます。映画にも行きました。商店街もすぐそこです。しかし、親はこの建物については話してくれませんでした。

洋館の方は以前紹介しております。子供心に、もの凄く興味を持ったのですが、し

らんでいいと、かたくなに手を引かれて行った覚えがあります。世界館もこのすぐ向うです。おだいっさんはこの隣です。おだいっさん、詰まりお大師さんで、善通寺をこういっておりました。

そこからすこし歩いたところです。

昔は広いと思ってた道が、今は車のすれ違いも危うい幅であったことにびっくりしたのを覚えています。写真の店は酒屋さんです。本当に昔からあった酒屋さんで、昔も今もずうっと地味なお店でした。それが今も続いています。奥を覗くと覚えがあります。といっても、用があって入ったとか言うわけではありません。この店の前を歩いて幼稚園にかよっていたので、自然と馴染みになっていたと言うだけです。ですから、懐かしいとは思っても、そう深い感慨はありません。でもなつかしい。



しかし下の写真の神社がここまで立派になっているのはびっくりしました。境内の木は昔のままと思います。今でこそ蓋がしてありますが、水路が道の端にありました。この水路を川だというと、他県の人には溝だといいます。漢字で書くと溝ですが、平仮名だとどぶですから口が悪い。当時はめだかもいた清流でした。善通寺はこれで水の豊かなところですか。どんどん湧いて出てくるとはいえませんが、水不足の香川で、断水知

らずの町です。

この神社では帰り道、よく遊びました。一人遊びではありましたが。同い年の子供がいなかったという理由だけからでした。団塊の世代なのに、なぜそうだったのか、たまたまそうただけか、解りません。きれいになって、よそよそしく見えました。みるだけのものは、今の方があるというのに。



下の写真は正に閻魔様であります。どこにあるかという、実に善通寺本堂横、大師堂の脇廊下です。何と怖いことか。花が飾られ、様々なほとけを従えています。古くから安置されていたとは思いますが、記憶にありません。本堂に参り、見過ごしてきたからでしょうか。しかし、かすかに祖母に、地獄に落ちると閻魔様に舌を抜かれるといわれたように思います。そしてそれが、この像の前であったような気がします。なにか面白がって、こどもの私を怖がらせようと含み笑いをしていたような・・・。



そして下の建物は、人の住まない住居だと、一目瞭然です。しかしこのモダニズムはどうでしょう。素敵でおしゃれな三角の出窓が二つ、並んでいます。実はこれも知りませんでした。三角窓の上の、ひさしのようにになっている屋根の形からも戦前の建物かとは推測されますが、間違っているかも知れません。横に立っている家が建て直され、やっと見えた風景でした。どなたがお住みになったのでしょうか。外壁もちゃあんと直されているのと思います。



街角探偵団などと、ふざけた気分での町を見て回っては来ましたが、懐かしいとか

ではなく、見知った町の風景に微妙な変化が続いていると知りました。そして、見て回るなんて物見遊山な事ではなく、しっかり見よう、覚えておこう、そうしなければ無くなってしまうと気付きました。町の風景だけでなく、時代も知らず知らずの内に変化してしまう。

見ておかなければ。記憶に留めておかなければ。私はこの場所で見続け、記録しておきます。

立ち止まり、ふっと何気なく街角を曲がると、そこは昭和がそのまま残っています。それがこの町かとおもっています。

## 善通寺 山野辺の道

総本山善通寺を抜け、駐車場から香色山の麓で西に向かう

と、軽が一台なんとか通れる道が続きます。



香色山ふもとの公園

横に子供の遊び場を見ながらこの道は始まります。ここでは、つい先ごろまでよく子供を見かけたのですが、最近は殆どそんなこともなくなりました。車を止められないのが不便だからでしょうか、それともこの道のゴールに花公園が出来、そちらにみんないってしまうようになったからでしょうか。



最初はこのように整備された道が続きます。しかしこの道筋で、何か特別なものを紹介できるようなものはありません。山の辺の道なんて、大げさな名前を付けてしまいました。奈良の山の辺の道を歩いたことから連想して、こんな風に呼んでみました。



先ほどのところから少し行くと、至極立派な石垣を見ます。何か特別な旧跡がありそうに思えますが、実は個人宅の入り口で、写真の両脇の切れた部分に石の門柱があり、表札もかかっています。個人宅なのでカットしました。この入り口の道を上がると大豪邸があり、その上テニスコートが2面あると噂されていますが、ご縁がなくて見たことはありません。

これから道は狭くなり、墓地も少し高い所にあります。しかし気にせず進みましょう。道自体もすこし高いところを歩いて、向うに田の広がりや現在の主要道路を見下ろします。

歩を進めてみると、坂の上にお寺を見つけます。写真の赤い瓦の建物がそうです。ちっともお寺らしくないとおもわれそうですが、次の写真を見てください。





この通り、不動院と書いてあります。その横の自動販売機はご愛嬌です。

朝比奈グラウンドのスコアボードが見えます。日ごろは使われていませんが、地元の中学生とか草野球の試合で賑わっていることもあり、そんなときは楽しくなります。



そして少しだけ目を横に振ると、甲山。まあい鉢がね野様に見えるのでそんな名が付けられたのかと思っています。随分のどかな山の姿です。そうでした、この甲山にも遊歩道が出来ており、その道は登い初めこそ少し急ですが、あとは息も切れない緩やかさでした。しかし登る人もいないのか、頂上は背の高い草の生え放題、ベンチもありますが、草に埋もれています。地元のボランティアが整備してたこともあったようです。しかし木々が高く、景色も見渡せません。少々残念な思いをしたきおくがあります。



この山の麓、写真から言うところの山の景色の向うが甲山寺、八十八所の一つがあります。そして以前紹介した、たのかみさあがいます。一木作りの仏様のいらっしゃるのもこの向うです。

ため池です。どこにでもあるものなので、さほど珍しくもないものですが、弘階池です。昔から大きな池で、実は父が鮒釣りなんかに通った池だったのですが、ここへ私の息子がルアーを持ってバス釣りにも通いました。同じ地に住み続けると、そんなことがあります。大きな蛇に出合ったと、怖そうに子供は言っておりました。



写真の中で、池の向う、木の枝に隠れている山が天霧山です。この頂上付近に山城がありました。城主は香川氏。香川氏は常日頃は山の向こう側で政務を執っていたようですが、いざ決戦となると山城に籠り、闘えるように備えていたようです。高い山なのに井戸もあり、城館へは犬返しの坂と呼ばれた急な坂があります。ずり落ちそうになります。私は下りで足をくじき、何年も経っているのに、未だに痛むことがあります。

そしてこの写真の反対側は筆の山。弘法大師の生誕地らしい地名です。ところがこの山は、私、登ろうと思いません。善通寺には善通寺だけのガイドブックがあって、そこに筆の山登山の体験談が掲載されていました。筆の山登山口、大坂峠登山口の看板はみたのですが、そこから先は、くもさん、へびさんがウジョウジョと書いてあったからです。引き返しました。

しかし、鳥坂峠への道から見ると、この筆の山は下のほうが一面桜になります。遠めにみて美しい姿になります。

このあたりから道は狭くなり、軽自動車一台で精一杯になります。山の斜面を切り開き、無理矢理道を作ったのが解ります。低い方からは木々の枝がかぶさるようになり

、ちょっとした木々のトンネル気分です。



しかし人も車も行き当たりません。こんなに素敵な散歩道なのに。



斜面の上のほうは蜜柑の木が色付いた実をつけています。こんなところを一人占めです。

しかし、ここからさきは何もないのです。多少の上がり下がりと少々の右左だけ。右手下方に、今なら刈り取られた田んぼが畦道に区切られて広がっているだけです。人も通らず、車も通らず、私一人が歩いています。こうしていると、まっすぐな道はさびしい、とかの句も思い出したり、いろんな顔も浮かんできます。八十八ヶ所巡りはたぶんこんな感じかと思ったりします。



実はこの途中に墓所もありますが、お墓は写さないものと父に教えられました。ですから、あるとだけ言っておきます。しかし寂しいとはすこしも思いません。歩いているからでしょうか。もうすぐ山の際を回り、川の上のコンクリートの道を歩き、向うに石垣やフェンスを見て、この山の辺の道の半分を終わります。



一度、この道をとはいいません、どこか山の辺の道を歩いてみてください。人の作った街など陽炎に見えます。

## 山野辺の道 後半

五岳の里市民集いの丘公園、通称花公園までの道を以前山辺の道として紹介しましたが、その時はデジカメの電池が無くなり、後半を撮影できませんでした。今回デジカメも新しくし、今日写してきました。ちょっとびっくりしたこともあったのですが、明日から画像を添付し、紹介したいと思っています。

ということで、下の写真が花公園です。



前市長の置き土産ですが、批判はあれこれあるにしても、子連れのお母さんや運動好きのお年寄りにはとてもいいところだと思います。しかし、まだ若い（つморいの）私は公園の中ではなく、外側の道を上がります。写真の山のふもとを巡ってゆく山辺の道です。

脇の道を少し上がると、公園はこんな風に見えます。なだらかな筆の山麓に広がった、まだ桜の木も若い、出来て間もない公園です・



その側道を上がるのですが、その角度はこうです。下の写真で雰囲気はわかってもらえるかと思います。



割りと急なんです。最近寒くて歩いてなかった脚には、ちょっときつかったかなあ。その日はよくても、二日後三日後が辛いのは経験上わかってました。でも頑張っちゃうんですね。気だけは若い積りですから。しかし車も人も行き逢わない、それでいてちゃんと舗装されてる、歩きよい坂道です。

ところが、道沿いの果樹園、耕作放棄地再生事業実施地とあります。このあと、この耕作放棄地を沢山見ることになります。



下の写真の、花公園の一番高いところにある休憩所を横に見ながら坂を上っていると、盛んに犬の吠える声が聞こえます。えっ、と思いながらこちらも、人のいないことを幸いに、犬がワンと吠えればこっちもワンとへる真似をすると、答えるようにワンワンと吠え返してきます。面白がってワンワン言いながら、それで坂のきつさを忘れて上がっていききました。



勿論、何度目かですから上の辺りに人家がないことは、何となく解っていました。それで、犬？家も無いのに犬がいる？いるんです、声が聞こえているのですから。そして、きょろきょろ捜して歩くと、いたんですねえ、いぬが。最初はそれとわからず、畑の道具入れの小屋だと思ってました。しかし、鎖を引っ張る、ジャラジャラという音が聞こえたので、下を覗くとこの犬です。人懐っこそうな、じっと私を見詰め返し、尾っぽを振る犬でした。回りに人影は無く、犬のいる小屋だけです。なんだろうと考えてみましたが、事情はわかりません。とにかく和んだ一瞬でした。こんなことがあるから面白い。心楽しい思いでした。



あの坂道を上がって来ると、筆の山の登山口があります。一見整備されているようですが、登ったことはありません。あるガイドブックに、爬虫類と虫だらけと書いてあったからです。山登りは好きなんです。出釈迦寺のきつい登山道を何回か登り、上の本堂でへたり込んでいて、階段に座り込んでいると、靴を脱げっと住職に叱責され、それ以来出釈迦寺本堂には登るまいと決心したのですが、鎖場は登っておけばよかったとは思ってしております。いや、いこうかなあ、凄い傾斜と七曲がりの坂は億劫と言うより、見た途端引返すのも勇気と言いついたくなるほどですが。

さて、こちらの七曲がりですが、この道筋の山際に以前はミツバチの巣箱が設置されておりました。ところが今回は一個のありません。蜜柑の受粉時期はとうに過ぎたからでしょうか。



五岳山縦走ルート of 看板も、その側に立っています。じっと見て、いやいやそんな野心はないと思ひ返しました。五岳山は

五岳の里の学び舎は

と、小学校の折の校歌で歌ってききましたが、もう大変です。それに、この辺り、まむしの里ともきいております。みかん畑には、地元の人なら長靴を必ず履いていくとも聞きましたから。今の季節だから平気で歩いています。それでも舗装されたところしか歩きません。草も踏まないように気をつけています。こわいです、山道は。それとも、警戒しすぎの、おとっちゃま でしょうか。





人生下り坂最高が、キャッチフレーズの番組がありますが、さきの峠頂上を過ぎると、まさに下り坂ばかりで楽なものです。後はもう見たくないものには目をつぶって、ひたすらきれいな物ばかり見て坂道を下って行きます。きれいに下草を刈った蜜柑園を見、あれた耕作放棄地は遠くの山並みで隠します

。この下を大日峠が通っています。その道端に蜜柑の袋が積み上げられてあり、横に金の箱とか木の箱があって、蜜柑一袋500円とか300円の、手書きの値段表が書いてあります。それも無造作に。ときおり、文旦を買いました。酸っぱいのですが、じつにジューシーで、一々包丁で房をカットしなければならない手間をかけても、よく食べました。わざわざ遠回りしてこの峠を越えて帰る途中、いつもの場所に車を一事停車してポケットから500円硬貨を出し、分担を詰めた袋、3袋の中から新鮮そうで大きそうな粒のものが詰まっているのを選び、もちろん硬貨を金の箱に入れます。かたんとお金の入った音が乾いて聞こえます。そして、その大きくて重いぶんたんの袋を抱えて車に引返している途中、女子高生に会いました。ありがとうございますと、言われました。すれ違って振り返りました。日本手ぬぐいでほっかぶりりをしたおばあちゃんが孫娘を迎えてました。自分の娘にしたいほど、清潔感を感じました。



一気に越えましょう。麓は近いです。

きれいに整地された土地に生えている老木です。実は、香色山の麓に作られた墓地の入り口に立っている木です。墓地は新しく、数も少ないのですが、お墓は写さないものという父の教えをここでも守りました。

この木を過ぎると、後は下り坂も無くなり、西部小学校をすぎて山辺の道の散歩は終わりです。



しかし、ひょっと気がつきました。下の写真の屋根の上を見てください。ちょうど鬼瓦の乗るところに、とがった屋根飾りがたっているのが見えます。为什么呢。先日紹介した三角窓の家にも、この屋根飾りが乗っていました。たぶん昭和初期の家の流行だったかと思っています。ほかにもこれがあるのを知っていますが、その一軒が先日壊されました。好きだったんですが。





山の道のウォーキングからの帰り道、これはぜひとも紹介しておきたいと思っていた家の写真を撮ってきました。善通寺市内での、個人の家の中でも秀逸な構えの御宅です。写真を見れば、もう説明など余分だと思えます。それが、これです。



家の横の、明り取りの窓などの装飾性はどうでしょう。贅沢な作りだと思いませんか。また屋根を支える横木も、シンプルですがちゃあんと作り付けられています。大屋

根は、天井を高くして断熱性を高め、雨戸が10枚、木の戸袋に納まるように作られています。ただ残念ながら、この雨戸が開けられているところを見たことがありません。入り口の門も開いたら見ものと思っているのです。見たい！善通寺にも、料亭とかではなく普通の家でこんなのがあります。



善通寺にあって、ぜひとも紹介せねばならぬのが

## 西行庵

です。下の写真は西行庵の入り口の石碑と灯籠です。



西行庵は大麻山の山すそに、通常人の通る道より奥へ入り込んだところにあります。



しかし、山辺のウォーキングというよりは、軽いヒル・クライムの到着点としては格好の場所です。



上の写真は歌碑ですが、先だって来たときには、どうしてか、この石碑の前に七輪が置いてあり、それこそ何か炊事をした形跡がありました。といっても不審者が入り込んだとかではなく、近所の人がこの庵の手入れに来て、一休みしたのだと思います。ここは、そんな風にいつもこざっぱりとしています。ただ、今回私は妻と東から上がってきましたので、相当きつい坂を登らなければならず、歩いている間ずうっと妻に不平をいわれました。息があがります。でも、あんたを痩せさせるためにつれてきたんだろう。ああ、そう反論したい・・・。

曼荼羅寺からですと、部落の中の家並みに沿ってだらだら長い距離を歩きますので、そんなにも高い所にあるとは気付きません。言い忘れました。車は軽でも無理です。道幅が狭くて、尚且つクランクに曲がっていて立ち往生すること間違いなしです。わたしが困ったのですから。



善通寺は、住んでるものしか知らない町です。時間に流されるまま、どこへ行くともなく流れて今日まで来ました。駅に停まる電車は一両編成。特急も土讃線を走っていますが、早朝など四両編成全部で一人の乗客なんて普通です。でも角を一つ曲がれば、そこは大正、昭和の時間が止まったまま残っています。でも普通に人は住み、生活しています。こんなところ、日本中どこにでもあるんだと、おもっています。なぜなら、隣の

町もその隣も同じですから。















































そうなんですな。ひょいと見かけた一文に、仲村城というのがひっかかりました。ええー、善通寺に城があったのぉ。これが正直な感想でした。ありました。確かに、弥谷寺の上の天霧城は有名で、その険しい山城に登っていく健康ウォーキングの募集が市の広報に載っていますが、それは高瀬と多度津の話とっていました。それが、善通寺に城が四個もあったとは。吉原町には鷺井城、中村町に仲村城、大麻の大麻山城、内山城、そして甲山寺の横の甲山城がありました。実際、その風景はみているんです。吉原の鷺井神社は、あの木の生い茂っているところはなんだと、好奇心丸出しで田んぼの中を歩いて行って見たところでした。たぶん神社だろうと思っていたのですが、確かに神社で、清龍古墳とか色々な由来を書いてあった看板もありました。目を患った城主が夢のお告げで、なんとかの井戸の水で目を洗うと、たちまち眼病が直ったという謂れが書いてありました。その井戸は田んぼ一枚離れた所に今もありますが、もう荒れ果てて水も汚れきっており、汲んでみようともしないほどでした。しかし、そこが昔城だったとは書いてなかったと思います。私が見落としかもしれません。

仲村城も同じことで、神社の向こうに木立の茂った一角があり、なにか放置された家でもあるのかと思っていた所がそうでした。アプローチを間違え、水路を板一枚の狭い橋を危うく渡り、畦を田んぼに落ち込みながら歩いてゆくと、土を盛り上げた跡と思われる土手に樹木が生い茂っています。城跡であれば、土を盛り上げたところは土塁であり、土塁を作るために掘ったところは濠として機能するように作られたはずです。調べてみると、仲村城については、善通寺市のサイトに、次のような説明がありました。

讃州府誌によると、ここは平安期、源氏に属していた行司貞房の居館（城）でした。鎌倉時代になると、壕を深く、土の堤を高くして二町四方の平城に整備し、この付近の中心的な城となりました。しかし、戦国時代に甲山城が築かれ、こちらは廃城となりました。現在でも土塁と壕の一部は残っています。また城内には、天霧城主香川氏の祖で、後三年の役で八幡太郎源義家に従い勇敢に戦って片目に敵の矢を受けた鎌倉権五郎影正神社があります。この神社は眼病を癒す神として霊験があると言われていています。祠の前には柏の大樹が生い茂っています。

こんなところに、あの鎌倉神社との繋がりのある物がひっそりと残っておりました。善通寺なんて、合戦とかには無縁な時間が流れていたとしか思えませんのに、その痕跡はそのまま何も想像させない姿で残ってあります。

## 私の好きなテレビドラマです

---

ご存知かもしれません。単純に私が知らなかっただけということかも、とも思っていますが、Barレモン・ハート、見てて気持ちのいい番組です。毎週月曜日午後十一時から、BSフジで放送されています。現在はseason 2 ということで、以前から放送されていたようです。古いビルの一階の片隅にBarレモン・ハートの電光看板が立っており、その横のドアを押して入っていくとカウンターがあって、中村梅雀のバーテンダーが折り目正しい挨拶で客を迎えます。バーはほの暗く、壁にかかった絵も、書かれたものが判別できません。私は興味津々なんです。しかし、置かれたガレ風のスタンドの趣味の良さは、ドラマを追うのではなく、そちらの方に目が行ってしまいます。

ストーリーは単純です。一回の放送で、二話語られます。そのどれもが、このバーなら、こんな話があるだろうなあと思える、ちょっとウィットの効いたドラマです。

番組の宣伝になってしまいました。思い出したら、ちょっとご覧になってみたらと思います。

じつはもう一つ推薦したい番組があります。これはあまりに有名ですから、今更と言われそうなんです。NHKの美の壺です。これとよく似たところのある番組に、イッピンというものもありますが、じつは番組自体を推そうというのではありません。いや、当然に見ごたえのある、素晴らしい番組ではあります。ですが、じつは内容のど真ん中ではなく、その後ろで流れるジャズが聞きごたえのある選曲になっています。オープニングはアート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズのモーニンが流れます。ジャズ愛好家と自分でも思っている私ですが、知らない曲が流れ、聞き入ってしまいます。そんな楽しみ方もできる放送です。ちょっと耳を澄ませて聞いてみてください。番組もいいけど、ジャズもいいですよ。